

年頭所感

北海道知事 高橋 はるみ

新年明けましておめでとうございます。皆様とともに新しい年を迎えられたことを大変うれしく思います。

昨年を振り返りますと、大雪や豪雨といった自然の猛威が相次いで本道を襲う中、9月6日、道民がかつて経験したことのない最大震度7を記録する北海道胆振東部地震が発生し、多くの尊い命が失われました。大規模な土砂災害、家屋の倒壊や道路の陥没など甚大な被害が生じ、また、道内全域での停電によるライフラインの寸断や産業被害の拡大など、道民の暮らしや経済社会活動に大きな影響を及ぼしましたが、北海道は今、多くの皆様に支えていただきながら、災害からの復旧・復興に向けて全力で取り組んでいます。

一方、北海道命名150年の節目を迎え、天皇皇后陛下の御臨席を賜り、記念式典を開催するとともに、道民・企業・団体の皆様と一体となって様々な企画を展開し、多くの方々に本道の礎を築かれた先人の偉業を振り返り、未来を展望していただく機会とすることができました。ご協力いただいた皆様に感謝申し上げます。

また、2月から3月にかけて開催された平昌オリンピック・パラリンピックでは、本道ゆかりの選手が世界の舞台で活躍し国民に感動を与えてくれました。民族共生象徴空間の愛称「ウポポイ」の決定や上川アイヌの日本遺産の認定、新たな北海道遺産の選定など、本道が誇る独自の歴史や文化が注目され、関係の皆様が力を合わせて、価値の一層の磨き上げに取り組んできました。

道産ワインの地理的表示の認定や北海道米の道内港から中国への直接輸出の実現、どさんこプラザバンコク店のオープンといった食の輸出拡大を後押しする新

たな展開とともに、日中知事省長フォーラムや日中経済協力会議が本道で開催され、ロシア欧露部との本格的な交流が始まるなど、グローバル化への対応はますます進展しています。さらに、室蘭と岩手県宮古を結ぶフェリー航路開設、釧路と関西を結ぶ直行便の就航、高規格幹線道路の更なる延伸など、地域の発展に向け確かな歩みもありました。

そして、新たな総合教育大綱に基づく施策の展開や林業大学校の設立に向けた準備といった本道の未来を担う人づくりをはじめ、意思疎通支援・手話言語条例の制定、SDGsの推進など、将来にわたり多様で持続可能な地域づくりを着実に進めた1年となりました。

こうした特別な年を経て、今年、本道が本来の元気を取り戻し、更なる発展を目指していく大切な年となります。そのため、人口減少という最重要課題への対応はもとより、食・観光をはじめとする産業の活性化やAI、IoTの導入促進による新しい成長産業の創出、安全・安心な暮らしを支える基盤づくり、アイヌ文化の振興や縄文遺跡群の世界遺産登録に向けた取組といった歴史・文化の継承などを進め、かけがえのないふるさとを一段と輝かせるとともに、G20観光大臣会合という大きなチャンスも活かし、その先の2020年東京オリンピック・パラリンピックという絶好の機会につなげながら、本道の魅力と価値を世界に発信していくことが重要です。

多様で活力ある豊かな北海道を50年、100年先の世代にしっかりと引き継いでいけるよう、皆様のご理解とご協力をお願い申し上げますとともに、この一年が、皆様にとりまして、希望に満ちた年となりますよう心からお祈り申し上げ、新年のご挨拶といたします。